



れんげ畑

～ 結 の 学 校 ～

2月号

鴻巣市人権・男女共同のつどい

校長 永塚壽一

先月末、「最強寒波」と名付けられた寒波が鴻巣にも訪れました。

1/26 の子どもたちが登校する時間の気温は何と-5℃。「大寒」らしい、否、それ以上の寒さです。



そんな中、今年の「鴻巣市人権・男女共同のつどい」がオンラインで開催され、動画を視聴させていただきました。

第1部は人権作文優秀作品中学生二人の発表。題材は「幸せに生きる権利」「ヤングケアラー」でした。一人目の中学生の作文では、ウクライナとロシアの戦争を取り上げ、

- ① 話し合いて、相手の意見も取り入れた解決方法を見出していくこと
- ② 歴史や苦しんでいる人々の現状を知ることの大切さを説きながら、「幸せに生きる権利を誰もが平等に生きる世界を望む」と締めくくっていました。

二人目の中学生は「ヤングケアラー」を題材とし

- ① ヤングケアラーの子どもは「自分はヤングケアラーではない」と思っていること
- ② 「自分だけ違う目で見られたくない」と葛藤が生まれること

という問題を提起しました。そして、その解決のためには、「現状を知ること」「孤立している子に積極的な声掛け、寄り添い、よい理解者になることである」と結論付けていました。中身の濃い主張と堂々たる態度が大変立派でした。

その後行われた講演では、作家で僧侶の家田莊子さんの「一緒に生きて行こう～あなたの愛を求めています～」を拝聴しました。彼女自身も、幼いころ両親

からの虐待や友達からのいじめに苦しみ、「誰も頼れない。苦しくても人に言っちゃいけない。」と辛い思いをしていたそうです。

多くの土地をめぐるの講演活動から得た家田氏の知見として「暴力を排していくためには、町ぐるみで『あいさつ』や『美しい環境』が必要であること。」を述べていらっしゃいました。本校でも、課題となっている「挨拶」を大きな声でできるよう、児童会や6年生が登校時に、そして無言で集中して清掃ができるよう環境美化委員が中心となって活動しています。

また、薬物を乱用する少年を取り上げた話では、「薬物乱用」を防止するには、

- ① 「何でも話せる家庭が大切であること」
- ② 「父親も母親も、子育てに参画すること」

が重要であると教えていただきました。



話変わって、二月といえば「節分」。各季節の節目に「節分」はありますが、冬から春に切り替わるこの時期の「節分」を人々は昔から大切にしてきました。中国から伝わってきたこの行事の鬼には、赤青黄色緑黒と5つの色の鬼がいるそうです。この各色の鬼は、人々の心に生まれる5つの弱さを象徴しており、その弱さを払うために、鬼の嫌いな豆まきをするそうです。



3日の節分の夜には、家族そろって豆まきをして心の鬼を追い出し、人権作文や家田氏の提案について考えながら、ご家族で団らんされてはいかがでしょう。「鬼は外!福は内!」